

# 広げよう！優良実践の輪！

～平成27年度 頑張る学校応援事業 優良実践校の取組～

取組 26



## 問題行動等の未然防止に向けた取組

岡山市立三勲小学校

### 1 はじめに

本校は、岡山城の城下町として栄えてきた場所にある、児童数約600名の中規模校です。近年、児童の人間関係が希薄になりつつあり、校内外でのトラブルが増えてきました。また、隣接する市街地には、多くの娯楽施設があり、初発型非行が心配されることから、問題行動の未然防止を図る必要があると考えました。

### 2 取組の概要

#### (1) 児童の心の醸成を図る取組

始業前の校門でのあいさつ運動や落ち葉掃きなどの善行を継続した児童を顕彰して「光る子」賞を贈ったり、毎月1回、岡山市が作成した「あったかハ

ート」の読み聞かせを行う日を設けたりするとともに、学級や学年、異学年交流などでふれあう「とも遊び」を行ったりしています。



朝のあいさつ運動

#### (2) 人や地域とのかかわりを大切にESD教育の取組

ESD教育の中核として、地



能舞台での能楽

域における環境問題や人権、歴史、文化について学ぶ「ふるさと学習」に取り組んでいます。第6学年では、その集大成として、日本の伝統文化である「能楽」を学び、毎年、岡山後楽園の能舞台で発表しています。

#### (3) ともに学び合う授業づくりの取組

ペア学習やグループ学習を取り入れ、児童が主体的に話し合う場の工夫をするとともに、問題解決的な活動を取り入れ、児童がめあての解決に向かって、ともに学び合うことができるような授業づくりを行っています。

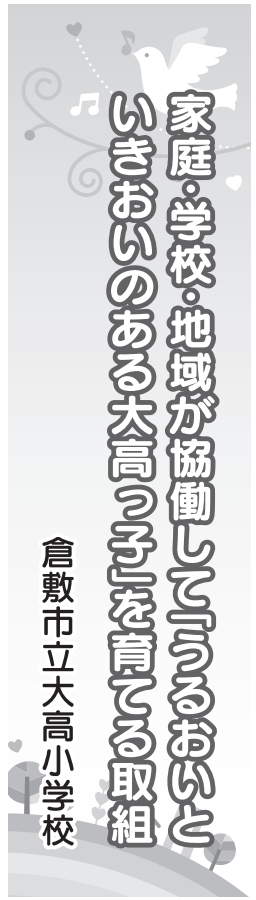
#### (4) 未然防止の組織的取組

毎月1回の生徒指導部会での重点的取組だけでなく、毎週1回、担任外教職員による情報交換会を行うことにより、全教職員の目で問題行動等の未然防止を図るようになるとともに、初動体制を整えています。また、毎月開催しているいじめ対策委員会では学期に1回、外部の方を招いて情報交換を行っています。

・地域のさわやかパトロール隊と連携し、校外での防犯体制の中で子どもの見守りをしていただいています。

### 3 成果と今後の取組

これらの取組により、問題行動が減少し、児童に落ち着きが見られるようになってきました。今後も児童一人ひとりのよりよく生きたいという願いを大切に、児童が主体的に様々な活動に取り組むことができるよう、研究を重ねていきたいと考えています。  
(校長 清廣 玲子)



家庭・学校・地域が協働して「いきいきおうち」を育てる取組

倉敷市立大高小学校

### 1 はじめに

本校は、児童数が1000名を超える大規模校です。平成26年の全国学力・学習状況調査では、算数科が全国平均を下回る結果でした。地域に目を向けると、子ども会の加入率が約2割であるなど、地域コミュニティへの参加意識も低い現状でした。そこで、福武教育文化振興財団の助成を受け、次のような取組を行ってきました。

### 2 取組の概要

#### (1)「教えて考えさせる授業」による授業改善

「教えて考えさせる授業」では、新しい学習内容を初めにきちんと教えた上で、課題解決的な学習を行います。考えさせる場面では、子ども同士の説明や教え合いを通して、深い理解や活用力の向上をねらいます。算

数科では、年間計画を作成し、全時間の板書写真をファイリングするなど、毎時間の地道な取組をしてきました。本年度より、他教科でも取組を進めています。



グループ学習の様子

#### (2) 家庭学習の充実

認知心理学に基づく学習法指導を実践するために「大高学びのコツ」を作成しました。「学びのコツ」は児童に配付し、家庭学習にも活用しています。ま

た、年間5回、チャレンジウィークを設定し、自主学習の推進やノーメディアの取組などを行っています。これらの取組は、家庭への便り「きらめき」で紹介し、家庭との連携がより一層進められるようにしています。

#### (3) 学校支援ボランティアの活用

5名の地域コーディネーターを中心に「大高おうえん隊」を組織し、次のような様々な支援をしていただいています。(登録者数112名)

①算数科、家庭科、総合的な学習、クラブ活動などの学習活動支援

②あいさつ運動、安全パトロールなどの登下校の見守り



ボランティアによる学習活動支援(計算の神様)の様子

③栽培、清掃などの校内環境整備

④放課後子ども教室による体験的な教育プログラムの企画・運営

#### (4) ポイントラリー制度の導入

倉敷市が発行するいきいきパスポートやパワフルキッズを活用し、「いきいきポイントラリー」に取り組んでいます。10ポイントごとに表彰するなど啓発も進めています。学校外での体験的な学びを通して、地域社会への参加意識を高めていきたいと考えています。

### 3 おわりに

こうした取組により、学校全体での授業改善や家庭学習の定着、地域連携が進んでおり、学力も向上のきざしを見せています。三年間の取組の成果を11月22日(火)には公開させていただく予定です。

今後は、より一層の取組の充実を図り、児童が生き生きと伸びていける学校づくりを進めたいと思います。

(校長 岡 健作)



地域とともにある、  
開かれた学校づくりの取組

勝央町立勝央北小学校

1 はじめに

本校は、9年前に3つの小学校が統合してできた、全校児童225名の中規模校です。統合後、問題行動が多発したり、学級崩壊が生じたりと学校全体が落ち着かない状況が続きました。家庭や地域との連携も取りづらく、教師は多忙感や孤立感を感じていました。そんな中、学校を開き、地域の教育力を教育活動に生かす取組を推進したところ、美しい環境で、温かく見守られ、落ち着いて生活・学習ができるようになり、学習意欲が向上してきました。

2 取組の概要

(1) 学校支援地域本部事業  
多くのボランティアの方々から学校の応援団として主に次のような活動をしてくださいます。

① 安全支援

(登下校の見守り活動・毎月

10日の「あいさつの日」)

② 環境整備支援

(花いっぱい運動・図書室整備)

③ 学習支援

(読み聞かせ・語り・家庭科・体育・書写・クラブ活動)

④ 地域学習支援

(特産物の黒豆栽培・町内和菓子職人の話・貴重な古墳の学習)



和菓子職人の技にふれる

学校からは、年2回の感謝集会の開催や学校行事への招待状、年賀状等で感謝の気持ちを表し、交流を深めています。特に、感謝集会での『美しい歌声』はみなさんに大変喜ばれています。子どもたちの存在や姿が地域に貢献している一例だと思います。



大きな反響を呼んだ北小まつり

(2) 学校運営協議会

保護者や地域と学校をつなぐ存在として、学校の方針を十分理解し、様々な教育活動を支援し、価値づけてくださったっています。「お飾り作りの会」から始まった学校運営協議会主催の『北小まつり』は、貴重な三世代交流の場として、大きな反響を呼んだ取組でした。学校を核

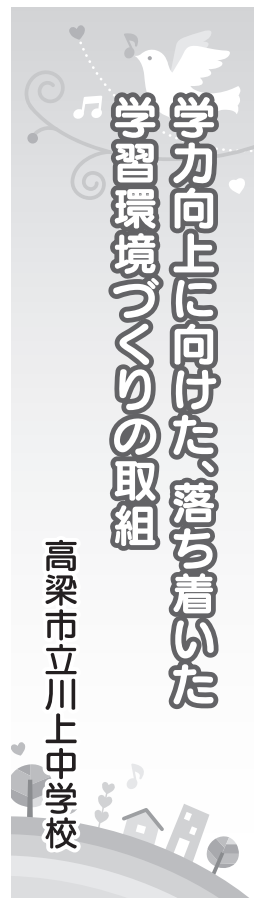
にした住民のネットワークが形成され、地域のコミュニティの再生に役立っていると考えられます。

3 成果と今後に向けて

両組織を両輪として地域とともにある学校をめざしてきました。地域の高い教育力と温かい愛情、惜しみない支援が、落ち着いた環境だけでなく、子どもたちの自己肯定感や、学びへ向かう姿勢を高めてくれました。

また、学校からの情報発信、子どもの頑張る姿を見ていただく学校行事(角力大会・学習発表会・授業研究会・運動会等)、地域を学ぶ取組等を通して、統合当時の課題であった、保護者・地域との信頼関係が再構築され、学校への期待が大きくなりました。そのことが、教職員のチーム力を向上させました。徹底した指導と共に学校あげての取組が増え、指導が積み上がっていくことで、児童の学力も着実に向上しています。

今後は、学校での学びを、さらに深めていくような地域貢献活動を通して、地域と協働した学習を進めていきたいと思えます。(校長 佐堂典子)



1 はじめに

平成26年度本校赴任時に生徒の多くが、授業中の集中力に欠ける、集会で人の話が落ち着いて聞けない、教員の指導を素直に受け入れないといった課題を抱えていました。そのため、落ち着いた学習環境づくりと生徒の学習する意欲を高めることが必要であると考えました。全教職員が同じベクトルで、まずは「当たり前前」のことが当たり前に行えるように」を合い言葉に指導することとしました。

2 取組

こんな学校にしたい、こんな生徒であってほしいことを校長が、生徒指導主事が、各担任が、部活動顧問が様々な場面で訴えかけ続けることから始めました。このことが、生徒に「今年は、何か違うぞ」という気持ちをもたせました。

取組の概要は次の通りです。

(1) 落ち着いた環境づくり

人の話がきちんと聞ける、気持ちの良い挨拶ができる、整理整頓ができる、正しい言葉遣いができる



整然とした下駄箱

(2) 学力向上への取組

授業前後の挨拶、板書の工夫、準備物の徹底、言語活動の充実、補充学習

(3) 学校生活や部活動におけるマナーの徹底

挨拶の徹底、道具を大切に、感謝の気持ち

(4) 保護者・地域への広報

学校での様子をすべて知らせる

(5) 小中連携

小学校1校・中学校1校の利



中学生の小学生ピアサポート

点を生かす

(6) 公民館活動

地域行事への積極的な参加

(7) 外部人材の活用

外部講師にどんどん来ていただく

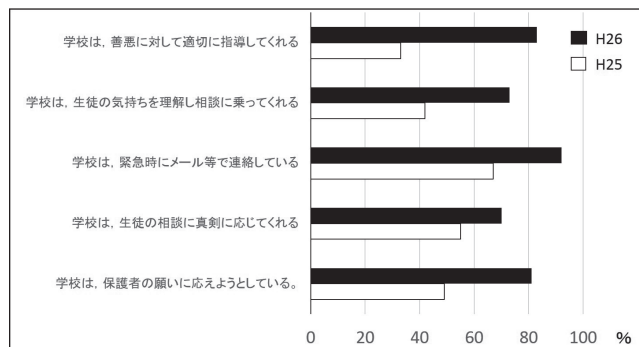
3 成果

これまで叱られることが多く、褒められた経験の乏しい生徒たちが、日々の取組の中で褒められ、積極的に当たり前のことをすることが大切であることを学びました。来校される方すべてが、「短期間ですごく落ち着きましたね」と言われるほどに成長しました。

保護者の学校評価アンケート結果（H25とH26の比較 グラフ）を見ても、教職員の努力、生徒のやる気、保護者・地域の

方々の支援により、落ち着いた学習環境づくりは一定の成果を上げたと思います。それに伴い全国学力調査においても平均正答率の改善が見られました。

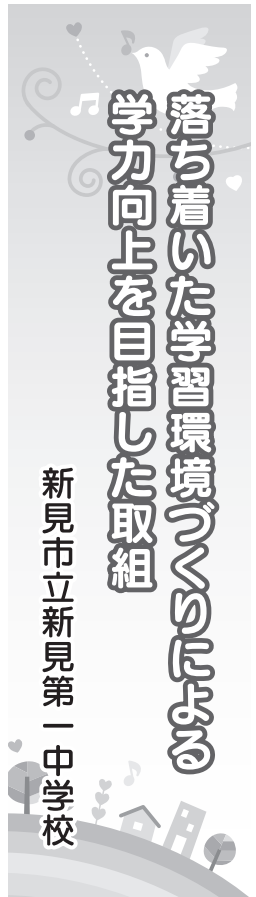
学校評価アンケート（H25とH26比較グラフ） ※肯定的な回答割合



4 おわりに

本校は平成27・28年度高梁市教育委員会の研究指定を受け、川上小学校と連携し「9年間の子どもの学びを見据えた小中連携の取組」を研究主題として研究を進めています。今後も生徒のさらなる成長を願って取り組みを進めたいと思います。

(校長 芳賀 正和)



### 1 はじめに

本校の学区は市内中心部から周辺部まで広範囲にわたり、スクールバス利用の生徒が多数いる中規模の学校です。教育設備は充実し、全生徒にタブレットPCの貸与と全教室に電子黒板が設置されています。反面、生徒の問題行動や学力面での課題をかかえるようになりました。

そこで昨年度より、落ち着いた学習環境と学力の向上を目指して、学校と生徒会が新たな取組を始めました。

### 2 生徒会の取組

#### (1) 授業2分前着席運動

執行部と学級委員が授業開始2分前になると、廊下で「教室に入っ」と大きな声で呼びかけをします。生徒はこの声を合

図に席に座り、静かに授業開始のチャイムを待ちます。今では全生徒の協力が得られ、落ち着いた授業が開始できるようになりました。

#### (2) 各種対決運動

授業前後の挨拶や授業態度の項目で、学級対抗の点検運動を行い、優秀な学級への表彰を行います。この運動は学級の団結力を高めることに役立つています。

#### (3) 登下校時の運動

登校時の「挨拶運動」では、執行部と自主参加の生徒が、登校生徒と挨拶を交わします。下校時の「下校促進運動」では、執行部と各部の部長が、下校時刻を守るための呼びかけを行います。



登校時のあいさつ運動

### 3 授業改善の取組

ICTの恵まれた環境を個別学習やグループ学習で生かしています。課題を即座に生徒のタブレットPCに配信し、集約も短時間で行うことができ、効率的でわかりやすい授業が実現できるようになりました。タブレットPCの家庭への持ち帰りも始めており、学習ツールとして定着しつつあります。

また、小グループでの協働学習を取り入れ、すべての生徒が「学び」に参加できるようにすることを目指しており、アクティブ・ラーニング研修と連動し



教科書やタブレットPCなどを使った小グループでの学び合い学習

て実践と検証を行っています。

### 4 おわりに

生徒会の取組は、自ら決めたルールは必ず守るという思いが反映されたものになっています。生徒と教師がよりよい学校づくりを目指して行動することで、落ち着いた学習環境の中で、主体的に学び合う態度が育つようになりました。

生徒の活躍の様子は、その都度本校ホームページや学校便りに掲載し、保護者や地域の方に広報活動をするともに、地域との協力関係を大切にしていきます。

(校長 村下 英二)